



突然ですが質問です。雪が降った時の写真を見て、気づいたことはありませんか？

とあるところだけ、雪が残っています。雪の部分の右側を見ると…。

雪が残っているのは橋です。雪

②1 視野広げる科学



の日に橋を確認すると、この写真のように橋だけに雪が積もったり、残ったりすることがあります。なぜでしょう？

答えは、橋の下に空間があり、橋の上下を風が吹き抜けるからです。上からも下からも熱源を当て

て、両面をこんがり焼くガスコンロのグリルやオーブントースターのように、上からも下からも風が通ること、橋は両面からすぐに冷えてしまいます。だから、雪がとけず積もりやすくなります。そ

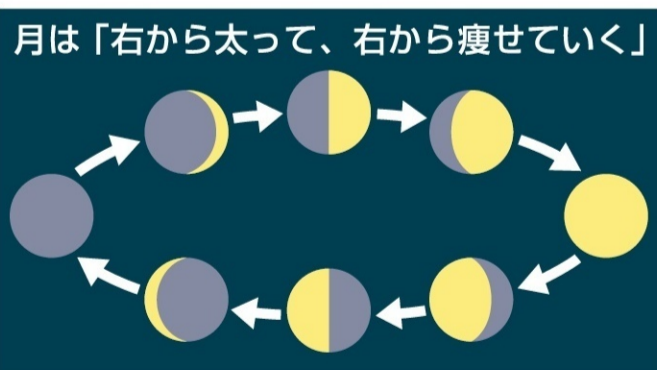
## 見上げてごらん 右から満ちる月を

の視点で、橋に注目してみてください。大きな橋に「凍結注意」と看板があったり、四條大橋などの大きな橋に「凍結防止剤」が置いてあったりする理由が分かるようになります。科学を学ぶことで普段の生活の視野が広がります。

今回は普段の生活で意識していただけるように月の話をします。月が右から満ちて、右から欠けていきます。子どもたちにはイメージしやすいように「月は右利き」「右から太って右から痩せる」と

かみ砕いて伝えています。今日、晴れていれば空を見て、月を探してください。三日月のようなら右側が光る月を確認することができます。その後は、さらに右から太っていく、明後日の火曜日には、右側が光る半月「上弦の月」となります。さらに9日後の2月17日には満月となり、その後、月は右側から痩せ始めます。

私が担当する教育学部の授業で、月の話をした後「今日は新月」「今日は三日月」など、学生



が授業外でも月に興味が持てるように、ツイッターや授業で使用するアプリなどで発信し続けました。その結果、「月を見る機会が多くなった」「月の満ち欠けの予想ができるようになった」など思った以上に学生が月を見上げ、考えるなど、たくさんの反応がありました。そして、私自身も、発信をすることでほぼ毎日、月を見るようになっていました。

この様に、雪の積もる橋や月を見た時に、子どもたちが意識するように声掛けをしてあげてください。普段の生活で科学を意識する良い機会となり、子どもたちの視野が広がるかもしれません。